

第1学年2組 国語科 学習構想案

日 時：令和4年10月3日(月) 第5校時

場 所：1年2組教室

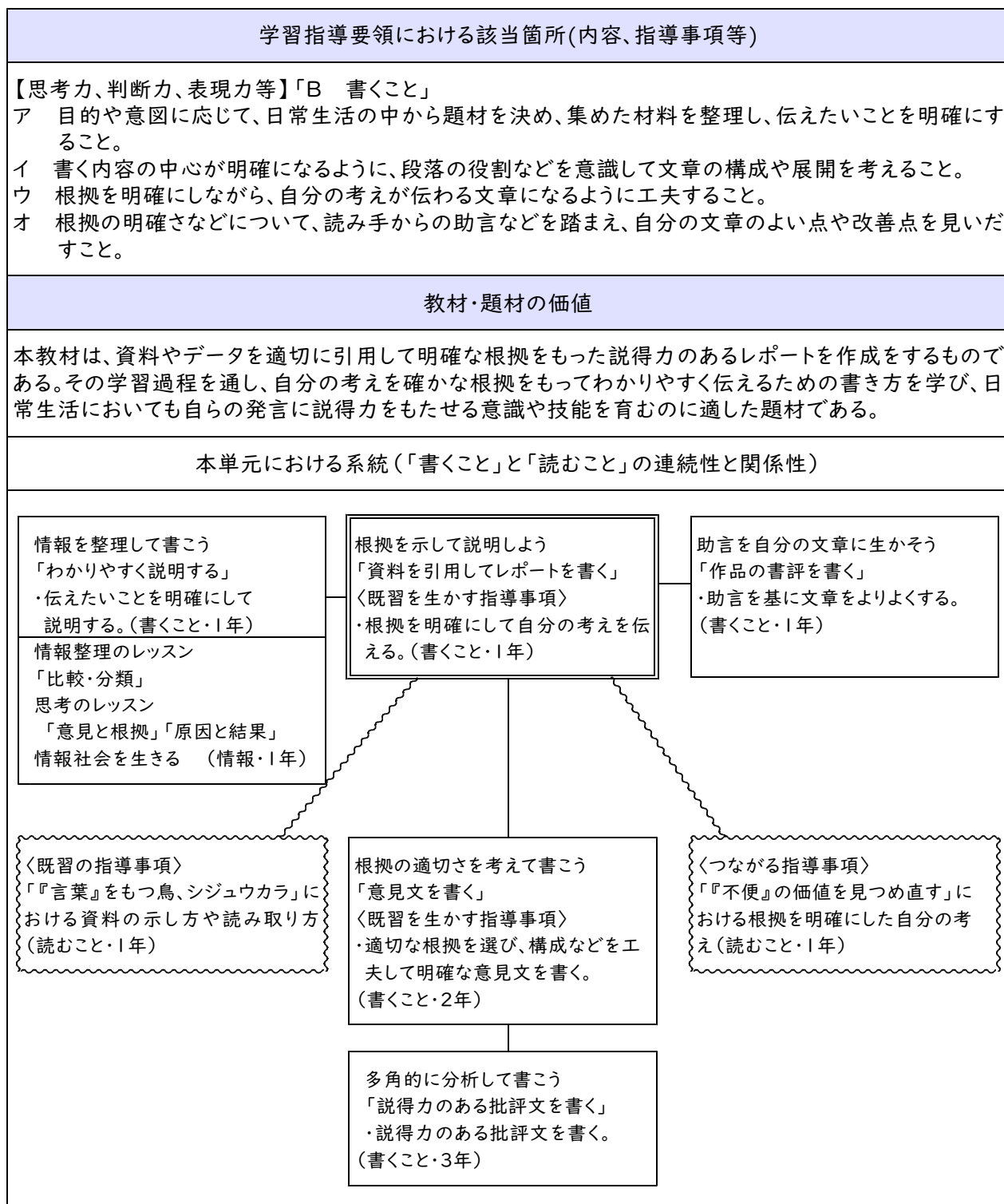
指導者：教諭 森永 こずえ

I 単元構想

単元名		根拠を示して説明しよう(光村図書 国語Ⅰ)		
単元の目標		(1) 比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使うことができる。[知識及び技能](2)イ (2) 書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えることができる。[思考力・判断力・表現力等]B(1)イ (3) 根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。[思考力・判断力・表現力等]B(1)ウ (4) 言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。「学びに向かう力、人間性等」		
単元の評価規準		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
		① 比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使っている。(2)イ	① 書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えている。 (B(1)イ) ② 根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。 (B(1)ウ)	① 文章の構成や展開を粘り強く考え、学習の見通しをもってレポートを作成しようとしている。
単元終了時の生徒の姿(単元のゴールの姿・期待される姿)				
根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるよう工夫して書くことができる生徒。				
単元を通した学習課題			本単元で働かせる見方・考え方	
情報を整理して根拠を明確にしながら、説得力のあるレポートを書こう。			資料を読み取り、根拠を示して自分の考えを伝えるためにわかりやすく書こうとすること。	
指導計画と評価計画(5時間扱い 本時 3/5)				
過程	時間	学習活動	評価の観点等	
一	I	○ 調査結果を、比較・分類・関係づけして整理する。 ・ 調査結果からどのようなことが言えるか考える。	【知①】(ワークシート) ・ 情報の整理をし、自分の考えを裏付ける資料やデータを選んでいる。 【思②】(ワークシート) ・ 得られた情報から何が言えるかを考えている。	
二	I	○ レポートに書く内容を決め、調査結果からわかることや自分の考えを考察として文章にする。 ・ 調査結果から導いた考察に説得力をもたせるよう工夫する。	【思②】(ワークシート) ・ 得られた情報を正確に捉えて分析し、適切に関連付けて考察を導き出している。 ・ 自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。	
	I 本時	○ 考察を読み合い、助言し合って根拠を示した説得力のある内容にする。 ・ 互いに考察を読み、論の流れや主張に、根拠に基づいた説得力があるか助言し合う。 ・ 助言をもとに、考察を書き直す。	【思②】(グループワーク・観察・ワークシート) ・ 根拠を明確にし、自分の考えが伝わる文章にするにはどのような工夫が必要か、他の人の文章からも学ぼうとしている。	

三	1	○レポートを作成する。 ・前時の助言などを生かしなが ら、レポートの構成に沿ってまと める。	【主①】(ワークシート) ・文章の構成や展開を粘り強く考え、レポート を作成している。 【思①】(ワークシート) ・書く内容の中心を明らかにして書いている。
四	1	○レポートを読み、評価し合い、学 習を振り返る。 ・レポートを読み合い、相互評価 を踏まえて、レポートの書き方 について学んだことを振り返る。	【思①】(ワークシート・観察) ・根拠にもとづいた文章の構成や展開ができ ているか考えることができる。

2 単元における系統及び生徒の実態



3 指導に当たっての留意点

◎研究主題 「考えをよりよく形成・共有できる授業の創造」

～生徒自らが手応えを感じることができる学習～

○「書くこと」部会のテーマ

「自分の考えや情報を整理し、他者にわかりやすく伝える書き方を工夫する生徒の育成」

(1) 研究主題や部会のテーマとの関連

- ・考え方を交流する場面の設定が、他者にどう伝わるか、わかりやすく伝える書き方になっているかを直接知る機会となり、生徒自らが手応えを感じられるようにする。
- ・「読むこと」での既習事項を振り返る場面を作ることにより、「書くこと」と「読むこと」の関係性と連続性を意識させる。

(2) 人権が尊重される授業づくりについての視点

- ・同じ資料からさまざまな考察が導き出されることを知る過程で、生徒同士が違いを認め合う支持的風土の育成を目指す。
- ・生徒にとって身近な課題を取り上げ、学級への所属意識や自己有用感を高める。

4 本時の学習

(1) 目標

導き出した考察を、根拠を明確にした、より説得力のある内容にすることができる。

(2) 展開

展開	時間	学習活動 (◇予想される生徒の発言)	指導上の留意点 (学習活動の目的・意図、内容、方法等)
導入	10分	1 学習の目標を確認する。 【めあて】互いの考察を読み、根拠を明確にした、より説得力のある内容にしよう。 【学習課題】 自分が書いた考察を、助言を生かして、根拠を踏まえた、より説得力のある内容にしよう。 2 どんな考察であれば説得力が増すのか確認する。 ◇データ、情報など明確な根拠がある ◇みんなが納得する ◇情報が正しく読み取れている ◇伝えたいことがわかる、読みやすい文章	○前時の学習を振り返り、本時の学習内容をおさえる。 (課題解決に向けた見通しをもつ手立て) ○説得力のある考察にするためのポイントを確認し、主体的に課題に取り組めるようにする。 ○情報をどう読み取ったかによって考察が変わるのを確認する。 ○「比較・分類」や「情報を読み取ろう」「言葉をもつ鳥、シジュウカラ」での「事実と自分の考えを分ける」など既習の学習を想起させる。 ○本時は、表記に関しては触れないことを確認する。
展開	30分	3 助言するポイントを確認する。 4 互いの考察を読み、助言し合う。 5 助言をもとに、もう一度自分の考察を見直す。	○相手の考察をポイントに沿って読んでいくことを確認する。 ○ポイントに沿って気づきや助言を付箋に記し、必要に応じてその詳しい内容を言葉で補足するように指示する。 (言語活動の設定及び設定の意図) ○互いに助言し合うことで、説得力がある文章とはどんなものか、より深く考え、自分の考察の改善に生かせるようにする。 ○助言や、他者の考察で説得力があると感じた点を、自分の考察にも生かすように助言する。

		【期待される学びの姿】 根拠を明らかにして説得力のある文章を書くための視点をもって自他の考察を読み、よりよくしようとしている	【具体的評価規準】 B書く(1)ウ ○根拠を明確にし、説得力をもって相手に伝わるような考察を考えている。 (方法:観察・ワークシート) 【到達していない生徒への手立て】 ○他の人の文章で良いと思う点について挙げさせる。
終末	10分	6 本時の振り返りをする。	○本時の、他者の考察を読んで気づいたことや、自分のものに生かせると感じたこと、または既習の内容からの学びを発表し、今後の学習にもつなげられるようにする。

【板書計画】

スクリーン 電子教科書 資料	神無月三日 根拠を示して説明しよう 資料を引用してレポートを書く めあて 互いの考察を読み、根拠を明確にした、より説得力のある内容にしよう。 【この時間の流れ】 ①互いの考察を読む 助言のポイントにしたがって読み、評価する。 〈助言のポイント〉 ・資料を正しく読み取れているか。 ・根拠をふまえているか。 ←意見が何に基づいているか (客観的な事実や信頼性の高い情報、データ) ②評価した理由について、説明する ③助言をもとにもう一度自分の考察を見直す ④振り返りをする
-------------------------------	---

【ICT 活用計画】

例:教師による教材提示の計画、ICT を活用した発表、まとめ等による考えの共有の計画等
①互いの考察を評価する場面でICTを利用する。 ②考察のもとになったデータはスクリーンに投影する。 ③電子教科書も使用する